

東北インキュベーション投資事業有限責任組合の概要

- 目的:** 大学等の先端的な技術シーズを活用して事業展開を行う、将来有望な未公開企業への戦略的投資を行い、東北地域から世界へ発信できるベンチャーの創出を図る。
- スキーム:** 日本政策投資銀行「大学発ベンチャー・インキュベーション・ファンド」の活用
- 対象:** 大学等の技術シーズを活用した、東北地域の技術指向型ベンチャーを中心に、分散投資を行う。
- 組合設立:** 平成16年3月25日
- 运营管理:** 東北イノベーションキャピタル株式会社(TICC)
- ファンド総額:** 30.8億円(平成16年3月25日現在)
- 運用期間:** 10年(2年延長の場合有)
- 投資方法:** 株式、新株予約権、新株予約権付社債等の取得

投資領域

投資エリア:東北7県

投資対象:ハイテク分野で将来有望なスタートアップ、アーリーステージの企業が中心

大学(国公立)
高専
独立行政法人
公設試験研究機関

技術シーズ、研究成果等

<例>

新素材

エレクトロニクス

ソフトウェア

ナノテク

環境

バイオ

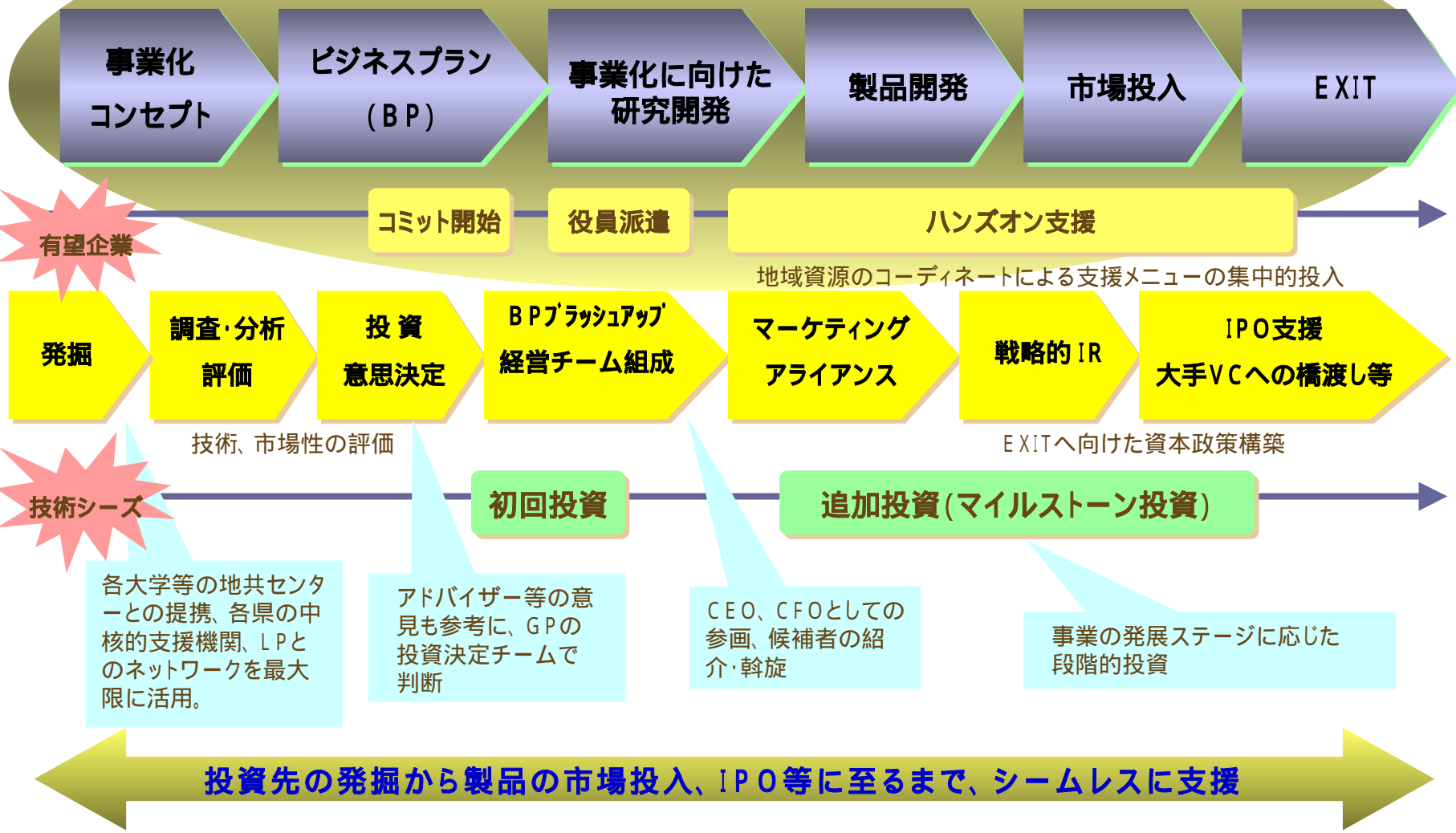
先端医療・福祉

その他

◇ 大学等との関わりについては、大学発ベンチャーに限定せず、地元中小企業との共同研究、大学等による技術指導も含め、幅広く考えていく。

投資実行のイメージ

投資先ベンチャーの発展プロセス



投資プロセス(シーズ発掘)

- 出資者(LP)からの紹介
- 地域ネットワークの活用(各大学等の地域共同研究センターや各県地域プラットフォーム事業との連携など)
- インターネット上のビジネスプラン募集
- 各県のビジネスプランコンテストへの参加 など



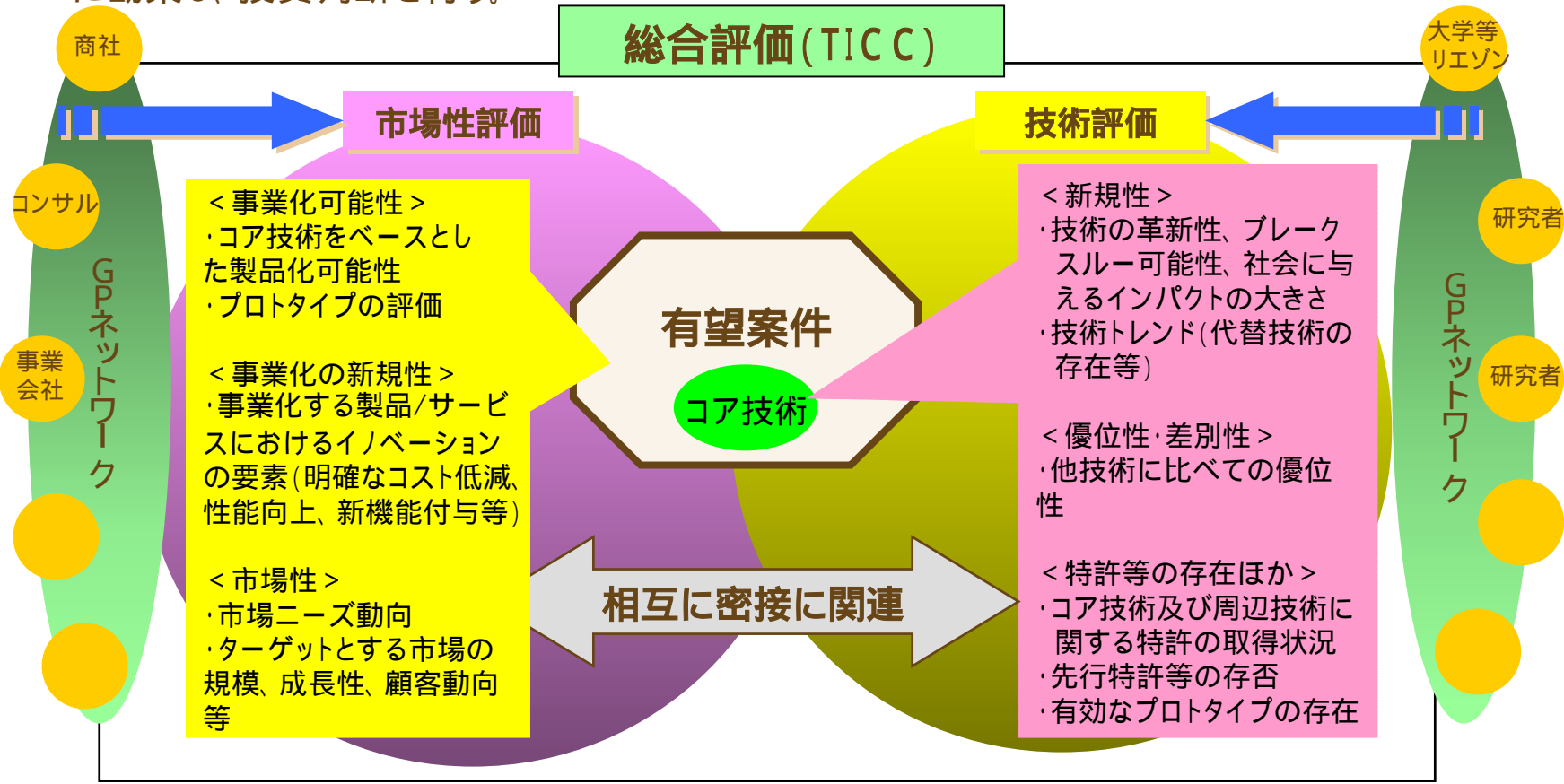
◇ 一次スクリーニングのうえ、有望なものは訪問調査。経営者との面談、第三者評価等をまじえながら投資判断材料を収集。

◇ 投資案件発掘については、LP、地域の役割が大。有望投資先の確保は、LPからの情報提供や、地域ネットワークを最大限活用する。

具体的な運用イメージ

評価(技術評価・市場性評価)

- ・外部アドバイザー等の第三者による評価 TICC内部でのデューデリジェンス、投資判断材料としての位置づけ。
- ・TICC内部では、コア技術の新規性、優位性、事業化(製品化)可能性、市場性等を総合的に勘案し、投資判断を行う。



投資後のフォロー(ハンズオン支援)

- ビジネスプラン作成と経営参画による共同推進
- 知的財産権の確立(オンリーワンとしての地位確保)
- 研究開発戦略の構築(研究者との役割分担の明確化)
- 地域資源のコーディネート(各種ソフト支援、インキュベータ等の物理的支援など)
- CEO、CFO候補者の紹介、斡旋
- アライアンス先の紹介(製品開発、販路開拓等)
- 資金調達(ファンドからの投資、各種公的助成金の獲得、他のVC投資の斡旋など)、資本政策構築・策定
- IR等による企業価値の向上と、出口までの誘導